

虎の門病院 麻酔科専門研修プログラムおよび関連資料



01.	虎の門病院麻酔科専門研修プログラ概要	-----	P. 2
02.	専門医制度の理念と専門医の使命	-----	P. 3
03.	専門研修プログラムの概要と特徴	-----	P. 3
04.	プログラムの運営方針	-----	P. 4
05.	指導体制と 2016 年麻酔科管理症例数	-----	P. 5

01. 麻酔科プログラム概要

1) 虎の門病院とは

虎の門病院の理念は、「医学への精進と貢献、病者への献身と奉仕を旨とし、その時代になしうる最良の医療を提供すること。(初代院長 大槻菊男)」です。これをもっとも平易な言葉で言い換えた共通認識は、「家族を安心して任せられる病院」ということです。そして、この理念が職員全体に浸透している病院です。

2) 教育は病院の礎

虎の門病院は、1958年の開院当初から、初期研修医が院内に居住するといった、先駆的な教育活動に取り組んできました。内科系・外科系を問わず、どの診療科であっても若手医師の教育には熱心です。同時に、1人の患者に対する治療という点でも、診療科同士の連携は抜群です。これは、若手医師が、いろいろな診療科をローテートして研修をする横系と、専門医による指導という縦系が織りあっている証です。

3) 豊富な症例

2016年1年間の、麻酔科関与手術症例は5,444件で、全身麻酔を含むものが全体の92%を占めています。症例の特徴として、ほとんどすべての診療科が揃っており、各診療科が相応の術式および手術件数をこなしていることです。初期の麻酔科研修では、硬膜外麻酔併用症例が多いことや胸部外科手術が多いことは大きな利点です。硬膜外麻酔、分離肺換気、そしてCV挿入といった基本的な手技は、先攻医の時期に確実に習得しておかなければなりません。どこの病院でも行っているものかもしれませんが、やはり、研修レベルに応じた難易度の提供や、豊富な症例数の経験を提供できる病院は、案外少ないものです。

4) 先攻医は毎年2名まで

2017年4月現在、麻酔科常勤医は17名で、このうち専門医資格（日本麻酔科学会）を有する者が10名、そして先攻医が7名です。手術室14室に対して、過度な労務にならない麻酔科医数の体制を構築しています。そして、先攻医の教育指導を考慮した症例の配分を心がけています。そのため先攻医の採用人数については、適切な教育環境の整備や、研修プログラム終了後にも虎の門病院への継続勤務を希望する者への対応から、毎年2名までとしています。

5) 臨床を支える知識習得

脳神経外科の麻酔、産科の麻酔、心臓外科の麻酔、小児の麻酔など、臨床経験は大切です。しかし、同時に基本的な学術的知識も習得しなければなりません。多くの麻酔科医が、ひとつの組織としての共通認識を有し、さらに守備範囲が広く、進歩の早い麻酔科学に対してEBMに基づき、個々の患者へ最適な医療を提供することを念頭に、週に一度クルズスを開催しています。クルズスの内容は、基本事項に重点を置き、主に日本麻酔科学会の教育ガイドライン（第3版）に準拠して進めています。

6) 見学は随時受け付けています

2019年5月に隣接地の新病院へ移転予定です。そのため、現在は半世紀も前の建物ですが、見学は随時受け付けていますので、その際は電話またはメールで連絡をください。

《連絡先》

虎の門病院 代表電話番号 03-3588-1111

玉井久義（麻酔科部長：内線 7401、水曜日不在）, tamaih.dis@gmail.com

または山瀬裕美（麻酔科医長：内線 7404）

以下は、日本麻酔科学会に掲載されている「虎の門病院麻酔科専門研修プログラム」から抜粋したものに更新改変をしたものです。

[＜目次へ戻る＞](#)

02. 専門医制度の理念と専門医の使命

1) 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療、集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者へ最適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成する。

2) 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

[＜目次へ戻る＞](#)

03. 専門研修プログラムの概要と特徴

虎の門病院を基幹病院として、専門研修連携施設B：虎の門病院分院（以下分院）、東京大学医学部附属病院、帝京大学医学部附属病院、および埼玉県立小児医療センターの4施設と連携を組んだプログラムとする。これらの病院群における連携により、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を円滑に達成できる教育を提供し、十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する。麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに記されている。

04. プログラムの運営方針

研修の前半2年間は、手術麻酔を中心に麻酔科医としての基礎的な知識および技術を習得する期間とする。原則として、急性期医療を主体とする虎の門病院で研修を行い、慢性疾患医療（肝・腎機能不全）および地域医療を主体とする分院では、適切な症例に対応して、適宜赴いて研修を行う。また、この期間内に、麻酔科医として必須技能である気管支内視鏡検査および心臓超音波検査の技術習得を、院内の専門内科医師・技師の指導の下、気管支内視鏡検査室、心臓超音波検査室に赴き研修を行なう。専攻医の経験目標に必要な特殊麻酔症例に関しては、原則としてこの2年間で達成できるようプログラムを構築する。

研修の後半2年間は、集中治療、ペインクリニック、周産期医療といった関連領域の診療へ従事する機会を提供する。また、手術麻酔に関しては、心臓麻酔、小児麻酔といったサブスペシャリティの高い症例を経験できるようプログラムを構築している。連携をしている専門研修連携施設毎の特徴を理解した上で、この期間内に専攻医の希望により1年間から最長2年間にわたり、ローテーション病院を選択できるようプログラムを運用する。

【研修実施計画例】

年間ローテーション表

	1年目	2年目	3年目	4年目
A	虎の門病院	虎の門病院	東京大学病院	帝京大学病院または埼玉小児病院または虎の門病院
B	虎の門病院	虎の門病院	帝京大学病院	東京大学病院または埼玉小児病院または虎の門病院
C	虎の門病院	虎の門病院	埼玉小児病院または虎の門病院	東京大学病院または帝京大学病院または虎の門病院

- ・分院へは、虎の門病院研修期間中に、適切な症例時に赴く
- ・埼玉小児病院へのローテーションは、原則3または6ヶ月間研修とする
- ・東京大学病院または帝京大学病院へのローテーションは、原則それぞれ1年間研修とする

週間予定表

虎の門病院の例（1年目）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術	手術	手術	手術	手術	休み	休み
午後	手術	手術	手術	気管支鏡または 心臓超音波研修	手術	休み	休み

虎の門病院の例（2年目）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術	手術	代替休日	手術	手術	休み	休み
午後	手術	手術	代替休日	手術	手術	休み	休み
夜間		当直					

[＜目次へ戻る＞](#)

05. 指導体制と2016年度麻酔科管理症例数

1) 専門研修基幹施設

虎の門病院

研修プログラム統括責任者：玉井久義

専門研修指導医：玉井久義（部長）、何 珮琳（医長）、山瀬裕美（医長）、宮崎美由紀、長谷川奈美、鈴木恵子、岸田兼一、

専門医：大淵麻衣子、前川真基、木村純子

麻酔科認定病院 第445号

特徴：高度な先進医療を担う急性期病院。開院当初より、研修医教育・専攻医教育に注力して設立された病院。最高水準の医療、家族を安心して委せられる病院を目標に、各診療科の連携はたいへん良好である。そのため、専攻医は院内の各部門を横断的に活躍の場とすることができ、より専門的な知識や技能を習得する機会が得られる。

麻酔科管理症例 5,444症例

	症例数
小児（6歳未満）の麻酔	125症例
帝王切開術の麻酔	47症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	52症例
胸部外科手術の麻酔	433症例
脳神経外科手術の麻酔	579症例

[＜目次へ戻る＞](#)